

博物館等におけるアイヌの人々の遺骨及びその副葬品の 保管状況等に関する再調査結果

令和2年1月
文化庁

1. 調査の目的

平成28年11月に取りまとめた前回調査以降の博物館等における状況を把握するため、改めて確認調査を実施した。

2. 調査の時期

平成31年2月以降、都道府県・指定都市教育委員会及び関係施設へ調査票を発出し、その後の追加調査等の結果を踏まえて精査を行い、令和元年12月1日現在の状況を取りまとめた。

3. 調査の対象

国立博物館、都道府県・市町村立博物館、民間の博物館、埋蔵文化財センター、各博物館相当施設・類似施設等（5,702館）

※動物園、植物園、動植物園、水族館、国公立大学、公立短期大学、大学共同利用機関法人附属博物館を除く。

4. 遺骨を保管している博物館等の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している博物館等の数は17施設（前回調査より+5施設）である。

（北海道博物館、北海道立埋蔵文化財センター、市立函館博物館、小樽市総合博物館、室蘭市民俗資料館、釧路市埋蔵文化財調査センター、網走市立郷土博物館、苫小牧市美術博物館、紋別市立博物館、根室市歴史と自然の資料館、伊達市噴火湾文化研究所、いしかり砂丘の風資料館、八雲町郷土資料館、上之国館調査整備センター、豊浦町中央公民館、厚岸町海事記念館、東京国立博物館）

- ・個体ごとに特定できた遺骨は133体（前回調査より+57体）である。
うち、個人が特定できる遺骨はない。

- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が8箱（前回調査より▲19箱）に納められている。

(今回の調査において遺骨の数が増減した主な理由)

- ・ 寄贈受入及び新規発見による増
- ・ 大学からの移管による増
- ・ 個体ごとの特定作業による減 等

施設名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道博物館	7 体		
北海道立埋蔵文化財センター	2 体		
市立函館博物館	5 体		1 箱
小樽市総合博物館	1 体		
室蘭市民俗資料館	7 体		
釧路市埋蔵文化財調査センター	9 体		1 箱
網走市立郷土博物館	2 体		
苫小牧市美術博物館	3 体		
紋別市立博物館	1 体		
根室市歴史と自然の資料館	1 4 体		5 箱
伊達市噴火湾文化研究所	7 0 体		
いしかり砂丘の風資料館			1 箱
八雲町郷土資料館	1 体		
上之国館調査整備センター	5 体		
豊浦町中央公民館	1 体		
厚岸町海事記念館	4 体		
東京国立博物館	1 体		
計 17 施設	計 133 体		計 8 箱

5. 個体ごとに特定できた133体について

(1) 博物館等が保管に至った時期・経緯

①時期

昭和23年から平成30年までの期間に保管に至った遺骨が128体(約96%)ある。また、明治時代に保管に至った遺骨が1体(約1%)、

保管に至った時期が不明の遺骨が4体（約3%）ある。

②経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が90体（約68%）、寄贈が6体（約5%）、他者からの寄託が14体（約11%）、その他の経緯が16体（約12%）ある。また、保管に至った経緯が不明の遺骨が7体（約5%）ある。

6. 発掘・発見された経緯等（個体ごとに特定できた133体）

（1）経緯

工事又は地質調査により出土した遺骨が19体（約14%）、地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が95体（約71%）、不時発見された遺骨が4体（約3%）ある。また、その他の経緯又は経緯が不明の遺骨が15体（約11%）ある。

（2）発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が92体（約69%）、個人が10体（約8%）、その他が21体（約16%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が10体（約8%）ある。

（3）発掘・発見された場所

北海道が111体（約83%）、その他の地域が14体（約11%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が8体（約6%）ある。

7. 博物館等に保管されている遺骨の状況（個体ごとに特定できた133体）

（1）遺骨の部位

全身骨が69体（約52%）、頭骨が45体（約34%）、四肢骨等が5体（約4%）、その他（歯など）が14体（約11%）ある。

（2）遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が98体（約74%）あり、江戸時代頃から明治時代の遺骨が2体（2%）ある。帰属年代が不明の遺骨が33体（約25%）ある。

（3）副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は86体（約65%）ある。

(4) 展示の有無

展示されている遺骨はない。副葬品については、一部展示されているものがある。

(5) 遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が59体(約44%)あり、紙製の箱に保管されている遺骨が57体(約43%)、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が13体(約10%)、その他が4体(3%)ある。

(6) 文化財の認定の有無

文化財に認定された遺骨が90体(約68%)あり、認定されていない遺骨が42体(32%)、不明が1体(約1%)ある。

8. 個体ごとに特定できなかった8箱について

(1) 博物館等が保管に至った時期・経緯

①時期

8箱全てが、昭和40年から平成29年までの期間に保管に至ったものである。

②経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が1箱(約13%)、他者からの寄託によるものが7箱(約88%)ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が1箱(約13%)あり、戦後において発掘・発見された遺骨が2箱(25%)ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が5箱(約63%)ある。

②経緯

工事や地質調査等に伴う遺骨が5箱(約63%)、発掘調査の結果発見された遺骨が1箱(約13%)あり、不時発見された遺骨が1箱(約13%)ある。発掘・発見された経緯が不明の遺骨が1箱(約13%)ある。

③発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が1箱（約13%）、個人が1箱（約13%）、その他が5箱（約63%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が1箱（約13%）ある。

④発掘・発見された場所

北海道が3箱（約38%）あり、その他地域が5箱（約63%）ある。

（3）博物館等に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

全身骨が4箱（50%）、頭骨が1箱（約13%）、四肢骨等が1箱（約13%）、その他が2箱（25%）ある。

②遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が1箱（約13%）、江戸時代頃から明治時代の遺骨が2箱（25%）ある。帰属年代が不明の遺骨が5箱（約63%）ある。

③副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が1箱（約13%）に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

④展示の有無

展示されている遺骨及び副葬品はない。

⑤遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が7箱（約88%）、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が1箱（約13%）ある。

⑥遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨はない。

博物館等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果 増減表

前回調査(平成28年11月取りまとめ)			今回調査(令和元年12月取りまとめ)				
施設名	個体 特定 (体)	特定 不可 (箱)	個体 特定 (体)	特定 不可 (箱)	増減内訳		主な増減理由
					個体 特定	特定 不可	
北海道博物館	7		7				
北海道立埋蔵文化財センター			2		2		前回調査対象外
市立函館博物館		25	5	1	5	△ 24	個体ごとの特定作業、他施設への移管
小樽市総合博物館			1		1		館内再調査により判明
室蘭市民俗資料館	7		7				
釧路市埋蔵文化財調査センター	7	1	9	1	2		館内再調査により判明
(ところ埋蔵文化財センター)	1		0		△ 1		慰霊施設への集約による減 (大学保管の遺骨と共に集約)
網走市立郷土博物館	2		2				
苫小牧市美術博物館	2		3		1		大学からの移管
紋別市立博物館			1		1		大学からの移管
根室市歴史と自然の資料館			14	5	14	5	寄贈受入
伊達市噴火湾文化研究所	43		70		27		大学からの移管
いしかり砂丘の風資料館		1		1			
八雲町郷土資料館			1		1		前回調査後に新規発見
上之国館調査整備センター	5		5				
豊浦町中央公民館	1		1				
厚岸町海事記念館			4		4		大学からの移管
東京国立博物館	1		1				
計17施設	76	27	133	8	57	△ 19	

※ (個体特定: 同一人物の御遺骨として特定されたもの(体)
 特定不可: 個体特定ができていない御遺骨(箱))

※下線は今般の再調査によって変動のあった箇所